

はじめに

管理栄養士養成施設の教員として、「解剖生理学」と「臨床栄養学」の教育に携わるようになって、今年で16年目になる。当初、授業ノートを作成するために、管理栄養士国家試験の過去問の出題傾向の研究を行った。その結果、半分以上の問題は、過去に出題された問題に関連した問題であるか、あるいは単に表現を変えただけの問題であることがわかった。第20回（2006年）の国家試験からは、新カリキュラムによる試験科目で実施されるようになり、全科目の受験が義務づけられたが、学生にとっては1～2年次に受講する「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の受験勉強が負担になっているようだった。栄養学科の学生にとっては、医学的な内容の勉強に苦手意識をもつものが多く、栄養士（実務経験を必要とする過程）にとっても他の科目と比べ、なじみがない分野である。そこで、過去に出題されたすべての問題の選択肢を授業の項目順に並べ替え、その前後を理解に必要な解説で埋めていく形で「授業プリント」を作成した。2005年からは、ブログで「管理栄養士国家試験徹底解説」<<http://diet2005.exblog.jp/>>を開始した。幸い、学生からは、わかりやすい解説として受け入れられ、現在でも1日200～400件程度のアクセスがある。

この度、羊土社より、国試対策本を執筆しないかというお誘いをいただき、自分としてもこれまで書き溜めてきたブログの記事と「授業プリント」を何らかの形にまとめたいと思っていたところなので、渡りに船とお引き受けした。本書は過去問から代表的なものをとりあげ、“問題解説＋キーワード解説”を読むことで合格に必要な知識や考え方を効率よく身につけられるようにした。この本が、管理栄養士をめざす人の勉強の一助にでもなれば幸いである。

最後に、このような本の執筆の機会いただき、また原稿の執筆にあたってさまざまな助言をいただいた羊土社編集部の、関家麻奈未氏、森悠美氏に深く感謝申し上げます。

2012年8月

長坂祐二